

『眠り姫の憂鬱と』

かつて子供だった守り人たち』

（金糸銀糸の蜘蛛の糸）

■キャラ設定

●ハーラン（本作のヒーロー）

- ・身長 180
- ・体重 88キロくらい 細マッチョというかんじ
- ・一人称 俺
- ・35歳

ヒロインを目覚めさせるために情報収集などにせいを出していた商人。
10歳当時、17歳で眠りについたヒロインのことは「大事な家族」と思っていた。成長するにつれて恋心を自覚するが、兄貴分のヴィスクがいるから諦めている。

十五歳で孤児院を出て商人の世界に入ったが、かわいらしい容姿のせいで初めて乗った商船で強姦され、過去の自分を捨て去りたくて入れ墨を入れる。
入れ墨さえなければ今もふわふわとした柔和な顔立ちをしている。

子供のころは泣いてばかりいたが、大人になってからは笑ってばかりいる。
舐められたら終わりの商人の世界で、虚勢を張って生きているが、本質は子供のころと変わっていない。

いつも明るく陽気に話すが、人を殴る直前の瞬間まで楽しそうにしてるのでこの時点で怒ったのかわかりにくいと、徒弟の間ではもっぱらの評判。

● マルス（本作のサブヒーロー）

・身長 176

・体重 75 キロくらい さほど鍛えてないホストという感じ

・一人称 俺

・20 歳前後

ハーランが仕切ってる商人組合の徒弟。

顔がよくて愛嬌があって甘え上手。

ハーランのお気に入りだが、時々調子に乗りすぎて殴られる。

殴られて鼻が折れても「いやぁ怒らせちゃった失敗失敗」で済ませる謎の図太さがある。

基本的に自分を取り立ててくれたハーランに心酔しており、頼まれたことなら何でもやるが、ハーランが気に入ってる物は自分も欲しくなる性分。

ヒロインにちよっかいをだして、親方にばれるスリルを楽しんだりもする。

● ヴィスク

・身長 191 cm

・体重 75 キロ前後でやせ型

・一人称 俺

・19 歳↓39 歳（19 歳時点のセリフのみです）

孤児院育ち。

ハーランより四歳年上で、泣き虫なハーランを何くれとなく

かばったりかまったりからかったりしていた兄貴分。

覚めない眠りについたヒロインをそばで守り続けるために、

孤児院の職員になり、最終的に孤児院の院長になる。

しかし25 年の眠りから目覚めたヒロインに逃げられる。

●ヒロイン

二十五年間眠り続けた夢の少女。

本名は別にあるが、親しい人からは「オーリ」と呼ばれている。

元孤児院の職員で、かつて子供だった四人のヤンデレに執着されている。

日本出身だが、五歳のころにこちらの世界に迷い込む。

十七歳で一度日本への帰還に成功しているが、ヤンデレ共の執着が強すぎて二十五年後に日本から引つ張り戻された。

他人が自分に依存することは許すけど、依存しきった相手にもほかの人々と変わらない接し方をするせいで、「こんなに愛してるのに、どうして愛してくれないんだ」という慟哭を引き出す天才ヤンデレメーカー。

●トラック1 ちぐはぐ（9分程度）

ヒロインが眠って五年が経過している。
十五歳のハーランが、寝室でヒロインに絵本を読み聞かせている。
初めて乗った商船で強姦され、その恐怖から目をそらすために、
一ヶ月かけて体の半分に入れ墨を入れた直後。
事情を明かせないまま、眠り続けるヒロインのもとに見舞いに訪れ、
兄貴分のヴィスクといさかいになり、「二度とここにくるな」と言われたこ
とにひどく落ち込んでいる。

最後のお別れということで二人きりになったが、
眠り続けるヒロインに何を話したらいいかわからず、
枕元に置いてあった絵本を読んでいる。

場所…寝室
時間…日中

【絵本の朗読 たどたどしく】

【3】

ハーラン「昔々、あるところに、決して目を覚まさないお姫様がいました。

お姫様は眠っている間、少しも歳をとらなかつたのですが、

周りの人々はどんどん歳を取っていきます。

困った王様は、お触れを出しました。

“姫を目覚めさせた者に、姫との結婚を許す”と。

国中の男たちが、お姫様を目覚めさせようと大騒ぎしました。

それでもお姫様は目覚めません。

ですが、ある素直な心をもった青年が、

真実の愛をもってお姫様に口づけをすると、

お姫様はついに、長い眠りから目を覚ましたのです」

【最後の行のどこかでトチる】

ハーラン【苦笑交じり】「ごめん……いいところで失敗しちゃった。

あーあ。ヴィスクはあんなにすらすら読んでいるのになあ。

すごいよな、あいつ。ほんと、何でもできてや」

1
2 ハーラン「照れくさそうに」実は、ヴィスクとケンカしたんだ。
3 それで……もう、孤児院に来るなって言われちゃった。
4 ヴィスクを叱らないでやって。僕が悪いんだ。
5 【おどけて】見て、この入れ墨。全然似合わないだろ？
6 分かってる。ヴィスクにも言われたよ。それで大ゲンカ」
7

8 ハーラン【深刻そうに】でも……こうでもしないと、
9 いつまでも変わらない気がして……。

10 【明るく】僕ももう十五歳だからさ！
11 守ってもらってばかりの、泣き虫ハーランは卒業しなきゃ。
12 だって、僕がいくら泣いたって、
13 オーリは目を覚ましてくれないんだから。

14 【自分に言い聞かせるように】
15 自分でなんとかしなきゃ。全部、自分で……」
16

17 ハーラン【慌てて】でも、オーリを見捨てるわけじゃないから！
18 この貧乏孤児院が潰れないように、たくさん稼いで寄付するし。
19 僕はヴィスクにみたいにずっとそばにはいられないけど、
20 オーリの目を覚まさせる方法は、きっと僕が見つけるから」
21

22 ハーラン【明るく】ねえ、この前さ……前回ここに来た時、
23 船に乗るって話したの、覚えてる？

24 商売のための船で、こっちの品物を向こうで売って、
25 向こうで買い付けた品物をこっちで売るんだ。

26 僕はまだ自分の船を持ってないから、
27 人の船に乗せてもらってね。

28 結構な稼ぎになったよ。いろいろ勉強にもなったし。
29 僕が四か月もこなかったから、寂しかった？
30 なんて……ヴィスクがずっといるもんな。寂しくなんかないか。
31 その船でさ、僕……

32 あの、僕……【つかかえて言葉が出てこない】
33 【苦しい笑い交じりに】ごめん……なんでもない」
34

35 ハーラン「あのさ……手、握っていい？」
36

1 SE 衣擦れ

ハーラン「へへ……柔らかくて、あったかくて……」

僕、オーリの手、大好きだ。

僕がまだ小さくて、いつも泣いてたころ、

オーリはこの手で僕を抱きしめてくれて、

優しく頭撫でてくれて……オーリがいれば、何も怖くなかった」

ハーラン「父さんも母さんも死んじゃったけど、

オーリが守ってくれたから、頑張れたんだ。

【しみじみと】こんなに小さな手だったんだな……」

ハーラン「僕、ダメだったよ……【泣き出す】守れなかった……！

男なのに……自分のことなのに、全然……ッ！」

【つらい記憶を思い出し、苦しみながら、つかえつつかえ】

ハーラン「あ、あいつら……僕のこと、か、かわいって……言って、

嫌だって言ったのに……やめてくれなくて……！

さからったら、殴られるから、だから……しょうがなくて……！

はやく、終わりたいくて……！

自分、から、喜んでる、ふりして……！

船で、三か月……ずっと……！ 毎日……！」

24 SE 枕元に体を伏せる

26 【3 耳元で】

ハーラン【震えながら】ずっと……オーリのことだけ考えてた。

オーリのこと考えてるときだけ、つらくなかったから。

なのに船を降りたら、ここに来るのが怖くて……

オーリに会うのが怖くて……ヴィスクに会うのが……怖くて。

【泣き笑い】変だよな？ 僕、おかしくなっちゃったんだ」

1 ハーラン「ねえ。わがままだって、わかってる。
2 子供みたいだって、笑われるかもしれないけど……。
3 起きて、抱きしめてほしいんだ。
4 頭を撫でて、手を握って、大丈夫だよハーランって、
5 言ってほしい。そうしたら（忘れられる気がする）——」

7 SE ノック

9 ハーラン「(はつとして、口をつぐむ)」

10 【9】

11 ヴィスク「ハーラン、入るぞ」

13 SE ドア開閉

15 【3 離れて】

16 ハーラン「慌てて涙をぬぐい、取り繕いながら」なんだよ。

17 二人きりにしてくれって言っただろう？

18 それとも何？ 最後のお別れって、時間制限付きだった？」

20 ヴィスク「……泣いてたのか」

22 ハーラン「へらへらして」そう。俺泣き虫だから

23 “聞いてよオーリ。ヴィスクが「もうここには来るな」なんて
24 言うんだ！ 酷いだろ!?” ——って言いつけてた」

26 ヴィスク「謝りに来たんだ。

27 悪かった。事情もきかずに、頭ごなしに……。

28 ただ、驚いたんだ。

29 船が港に戻ってきてるのに一ヶ月も音沙汰なしで、

30 家にも戻ってないし、連絡もつかない。

31 やつと顔を見せたと思ったら、そんな入れ墨……!」

34 ハーラン【ヴィスクのセリフ遮る】謝りにきたのか？

35 それとも説教の続き？」

36

1 ヴィスク「ハッとして」……悪い。

2 【苦笑い】俺、いつもこんなだな。

3 ちゃんと話そう。船で何があったか聞かせてくれ。
4 つらいことがあったんだろ？」

5
6 ハーラン「ヴィスクには関係ないだろ」

7
8 ヴィスク「関係ならあるだろ？」

9 俺たちはここで、兄弟みたいに育ったんだ。
10 なのに孤児院を出たとたん無関係なんて、
11 そんなのオーリだって悲しむ」

12
13 ハーラン【挑むような嘲笑】オーリが悲しむって？

14 おまえ、本気でそう思ってるのか？

15 オーリには何も聞こえてない。

16 そんなの、お前が一番わかっているはずだ。

17 お前がどんなに頼んだって、俺がどんなに泣いたって、
18 この五年間、オーリは寝返りすらうったことないじゃないか！
19 なのにどうして聞こえてるって……
20 届いてるって、思い込もうとするんだ！」

21
22 ヴィスク「やめろハーラン。それ以上言うな【怒鳴らず、静かに】」

23
24 ハーラン「見てられないんだよ、痛すぎてさ。みんなおかしいと思ってる。

25 オーリの部屋に鍵かけて、自分だけがその鍵持ってるさ！

26 お前とオーリの関係が、町でなんて言われているか知ってるか？

27 “人形遊び”だよ！」

28
29 ヴィスク「俺を怒らせようとしてるのか？」

30 悪いけど、俺はお前みたいなガキ相手に本気になったりしない。

31 どの誰に何を言われても、オーリを守るために

32 必要だと思うことをするだけだ」

33
34 ヴィスク「——それで？ お前は何をしてるんだ？ ハーラン。

35 一人で船に乗るのは危ないって、忠告しておいたよな？

36 なのに考えなしに行動して、その結果がみつともない入れ墨か？」

1
2 ヴィスク「商人になろうって男が、

3 そんなざまでまともな顧客が付くと思うのか。

4 どんなに見た目を変えたって、お前はガキのままだ。

5 感情に振り回されて、周りに迷惑かけて、

6 泣いて甘えれば許されると思ってる。

7 大人になれよハーラン

8 孤児院を出たお前を、俺はもう守ってやれない。

9 もう誰もお前のことを守ってはくれないんだ！」

10
11 【3↓9 移動しながら】

12 ハーラン「わかってるよ、そんなこと……！」

13 お前に言われなくても全部わかってる！」

14
15 S E 足早に去る

16 S E 叩きつけるようなドアの開閉

17
18 ヴィスク「ハーラン！【しばし間を開けてため息】」

19
20 【9↓3 移動しながら】

21 ヴィスク「わかってるよ……言い過ぎた。

22 ああー……きつつ……あいつよく見てるよなあ、人の弱点。

23 “人形遊び” って……ほんと、笑えない……。

24 十五歳のころ、俺もあんなに気難しかったっけ？

25 ああ……わかんないか。

26 オーリが眠ったの、俺が十四歳のころだもん……」

27
28 S E 粗末な椅子に座る音

29
30 ヴィスク「随分変わったよ。俺も、あいつも。

31 みんな大人になるんだ。いつまでも弟扱いなんてできないって、

32 わかってはいるんだけど……。なんでだろうな？

33 お兄ちゃんぶっちゃまうんだ。

34 だってあいつ、すげえ危なっかしいんだもん」

1 ヴィスク「気を取り直して」追いかけてくるよ、俺。

2 俺が見つめて、慰めてやらないと。

3 あいつ、泣きすぎて溶けて消えちまうから。

4 心配しないで。ちゃんと仲直りしてくるからさ」

5
6 SE 頬にキス

7 SE 立ち上がる音

8 SE 走り去る音

9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

■トラック2 噛み合う歯車 4分程度

場所…船室 トラック2からさらに20年が経過
孤児院で目を覚ましたヒロインは、ヴィスクとちよつとしたケンカをし、
着の身着のままで飛び出してきたところをハーランと再会する。
だがハーランは、ヒロインが目を覚ましたことすら知らされていなかった。

※ハーランは手首に小さな宝石が連なってるアクセサリをつけてるので、
挙動のタイミングで何くれとなく、小さな宝石がぶつかり合う
「シヤララ」系のSEつけてください。

【独白のため通常マイク】

SE 柱時計の音ずつと流す

【時間経過を説明する独白 全体的に軽い感じで】
ハーラン「結局、あの大ゲンカから二十年、

俺たちはずーっとギスギスしてて、

もとの関係には戻れなかった。

俺が意地はってたんじゃないかって？ それもある。

でも、あいつだって悪いんだ。

全部自分が背負ってるみたいな顔して、

「もうオオリのことは忘れて、お前は自由に生きろ」なんてさ。

そういうの、すげえイライラする【こっだけ重めに】。

でも、笑えるよなあ？

目覚めの王子様がヴィスクじゃなくて、

よりによって、あのグロウだったなんてなんて！

【ヴィスクへの嘲笑から自嘲ヘシフトしてください】

ほんと、何だったんだろうな、俺たちの二十五年ってさ。

何だったんだろうな」

SE ストップ

ハーラン「おまえにとって、俺たちってさ」

1 S E 市場の雑踏フェードイン

2
3 【市場の真ん中にしゃがみ込んで、泣いているヒロインを見つけるハーラン。
4 なんとなく、その後ろ姿に見覚えがあって放っておけない。】
5

6 【マイク位置4 ヒロインの背後に立つ】

7 ハーラン「おいお嬢ちゃん。

8 そんなとこで座り込んでんなよ、危ねえぞ！」
9

10 S E 座り込んでる女の子を立ち上がらせる
11

12 【ヒロイン、謝ってハーランに向き直る】
13

14 【9】

15 ハーラン「彼氏にでも振られたのか？ 泣くんだったら、
16

もうちょい静かな場所選ぶんだな。
17

この辺にや人さらいも出るんだからよ」
18

19 【ヒロイン、ハーランの入れ墨にぎよっとする】
20

21 ハーラン「おっと……！ その目……。

22 ヤバい男に絡まれたって思ってるだろ。
23

いいねえ。最近じゃあみんな慣れちまって、
24

この入れ墨見てもちっとも驚かなくてよ。
25

そういう反応、新鮮でぐつとくる。——あ、そうだ」
26

27 S E スカーフをほどく衣擦れ
28

29 【3】

30 ハーラン「やるよ、そのスカーフ。
31

気づいてたかなあ？ 今が実は冬だって。
32

つまり、そんな薄手のブラウス一枚で
33

うろついていいような気温じゃないってこと。
34

これ一枚でも巻いてりや、少しはあったかいだろ？
35

けっこう上物の布使ったいい品だぜ？」
36

1 【ヒロイン「でも……」】

2

3 【少し離れて】

4 ハーラン「泣くほど嫌なことがあった日にやあ、

5 笑えるくらい良いこともねえとな。

6 ほーら、笑え笑え！（ヒロインの口角押し上げながら）」

7

8 【12 わりと遠くから】

9 マルス 「親方あ！ ハーラン親方！

10 仕事中に女ひっかけんのはナシですよ！」

11

12 【9】

13 ハーラン「うるせーなあ市場（いちば）の治安を維持してんだよ！

14 【床に置いてた荷物を持ち上げながら】

15 悪い、お嬢ちゃん。俺もう行くわ。

16 大丈夫。お嬢ちゃん美人だし、もっと他にいい男が見つかるから」

17

18 【ヒロイン「あなた、〃泣き虫〃ハーラン？」】

19

20 S E どさどさと荷物を落つことす

21

22 ハーラン「……え？ なんでお前、そのあだ名……

23 誰に聞いた？

24 あー……いや、待った。ってか、もしかして……

25 “似てるだけの別人”じゃ……ない感じ？

26 つまりその……結構長く寝てたりする？」

27

28 【ヒロイン「例えば……二十五年くらい？」】

29

30 ハーラン「——はは（から笑い）」

31

32 ハーラン「嘘だろ？ ……え？ なんで？ 【困惑】

33 俺、そんな連絡ヴィスクからもらってな——」

【12】

マルス 「親方！ いい加減に仕事に戻ってくださいよ！

日が暮れるまでに終わらなくなっちゃう！」

ハーラン 「遠くに向かって」うるせえな緊急事態なんだよ！

【ヒロインに向き直る】

あー、ごめん……！ 今ちよつと、手えはなせなくて……！

なあ、時間ある？ 待っててくれるか？

【甘えて】ってか、待ってて。お願い。

【遠くに向かって】マルス！ おいマルス！」

【12 遠くから】

マルス 「はーい！」

SE 走り寄る音

マルス 「なんすか？ 俺、女の子といちゃついてる親方と違って

めちゃくちゃ忙しいんすけど」

ハーラン 「そういう軽口は俺と同じくらい

仕事ができるようになってからにしろマルス坊や。

ちよつとこの子預かっててくれ。

俺の大事なお客様だ。おいたはするなよ？」

【12→3】

SE ヒロインの肩を抱き寄せる

マルス 「お任せあれ！ 俺、女の子を喜ばせるのちよー得意なんで。

よろしくね、オーリちゃん。

【ハーランに手首ねじりあげられる】うわ、いっててて！」

【3 ヒロインの背後に立つマルスを見ながら】

ハーラン 「おいたは、するなよ」

【12】

マルス 「はあい……お行儀よくしまあす……」

1 ■トラック3 優しい人さらい 10分程度

2 仕事を終え、ヒロインを馬車に乗せて商館に連れて帰るハーラン。
3 オーリが目覚めてる事実に今一つ現実感が持てず、そわそわした気分。
4 同時に、どうしてヒロインが一人で市場で泣いていたのか、
5 気になってうずうずしている。

6
7 S E 馬のいななき

8 環境音 馬車の内部

9 S E クッションにぼふっと横たわる

10
11 【9】

12 ハーラン「はー……疲れた……」

13
14 【ヒロイン「忙しいんだね」】

15
16 ハーラン「いや、いつもはもう少し余裕あるんだ。

17 ただ、昨日までちょっと海に出ててさ。

18 その後処理でバタバタしてた」

19
20 ハーラン「ここ一ヶ月分の手紙も、さっきまとめて読んだんだ。

21 あー、そうそう。グロウからの手紙があったよ。

22 オーリを目覚めさせる方法が見付かったから、屋敷に來いって。

23 まさか本当に見つけるなんてな……。

24 パストルは、オーリが起きたこと知ってんの？

25 ——ってか覚えてる？ パストルのこと。

26 ほら、図書室でいつも不機嫌そうにしてたチビ。

27 あいつ医者になってさ、

28 今はオーリの主治医ってことになってんだけど」

29
30 【ヒロイン「うん。覚えてるし、一度会ったよ」】

31
32 ハーラン「そっか。ってことは……マジで俺だけ仲間外れかあ。

33 あー！ 傷つく！ ひでえよヴィスク！

34 そこはさあ！ 最低限通すべき筋つてもんがさあ！」

35
36 【ヒロイン「落ち着いたら連絡するつもりだったんだよ、たぶん」】

1
2 ハーラン「すねて」なんだよ……ヴィスクの肩もつわけ？
3 あいつから逃げ出して泣いてたくせに」
4

5 【ヒロイン「別に逃げてきたわけじゃ……」】
6

7 ハーラン「ふーん？　じゃ、このまま孤児院に送った方がいい？」
8

9 【ヒロイン「そ、それはちょっと……！」】
10

11 ハーラン【機嫌よく】ほーら、逃げてきたんだ。
12

13 冬の市場で、あんな薄着で、一人でめそめそ泣いてたんだ。
14 孤児院で何かあったんだろうってことは想像つくよ」
15

16 【ヒロイン「別に、何かあったってほどじゃ……ただちょっと」】
17

18 ハーラン「ただちょっと……なに？」
19

20 【ヒロイン「耳とか……舐められたくらい……」】
21

22 ハーラン「耳を舐められた!?　あっははははは！
23

24 冗談だろ！　ヴィスクに!?

25 女の子に手え握られただけで吐いてた男と、
26 よくそんな空気になれたなあ！」
27

28 【ヒロイン「笑わないでよ！　普通に怖かったんだから！」】
29

30 ハーラン「あー、悪い。そうだな……怖かったよなあ。
31

32 あいつ無駄にでかいし。目つき悪いし。高圧的だし。
33 すげーわかる。そりゃ逃げ出したくなるよなあ」
34

35 ハーラン「んー……よし決めた！
36

じゃあオーリのことは、もう孤児院に帰さない」

【ヒロイン「かえさないって……どういうこと？」】

【3 耳元で】

ハーラン「市場には人さらいが出るって、言っただろ？

オーリは俺にさらわれたんだ。

大丈夫。ヴィスクにはバレないよ。」

【ヒロイン「でも私、ハーランに面倒見てもらおうなんて思っていないよ。

仕事も、すむところも、ちゃんと自分で探すから】

【11 肩が抱ける程度の距離】

ハーラン「ふーん？ まあ、それは結構な心掛けだけどさ。

自立つつつても、具体的にどうするつもりだ？

保証人がいなきや部屋は貸してもらえないし、

そもそも部屋を借りる金もないだろ。

とすると住み込みの仕事になるけど、

なんの後ろ盾もない孤児院出身の女の子なんて、

まともなところじゃ雇ってもらえない」

【ヒロイン「それは……そうだけど……」】

ハーラン「まさか、街角に立つつもりじゃねえよな？

名前も知らない男と裸で抱き合って、パン一つ分の金をもらう。

そういう生活を始めようと思って？」

【ヒロイン「そういうわけじゃないけど……」】

ハーラン「違うなら、素直に俺のどこ来いよ。

商館で、ちょうど女中の募集かけてるんだ。

給料だって出すし、女中のための部屋もある。

オーリと一緒に働けたら、俺も嬉しい」

【ヒロイン「やめ……」】

1 【11↓3】

2 ハーラン「でも、なに？ 理想的な条件だろ？ 断る理由なんてない。
3 頼むよ。断らないでくれ。でないと俺、心配で……」

4
5 SE ヒロインの方に身を乗り出す座席のきしみ

6
7 【ヒロイン「ハーラン、ごめん。ちょっと離れて」】

8
9 【3 離れて】

10 ハーラン「え……？ ああ、悪い。近すぎた？

11 そっか……俺もうガキじゃねえもんな。

12 つはは……あー、でもそれ、なんかすげえ変な感じ。

13 だって、ガキのころはしょっちゅう同じベッドで寝てたのに、
14 急にそんな目で見られると……ちょっと傷つく。

15 ああ、違う違う。謝らなくていい。

16 でも……じゃあなんで、俺の馬車に乗ったんだ？

17 俺のこと、男として警戒してるんだよな？

18 それって、ちよっと迂闊すぎじゃね？

19 あそこで声かけたのが俺以外の誰かでも……」

20
21 【3 耳元】

22 ハーラン「オーリは、馬車に乗ったのか？」

23
24 【ヒロイン「ハーラン、どいて……！」】

25
26 ハーラン「質問に答えろよ。でないと、どいてやらない。

27 どうしてもどいてほしいなら——我慢できないくらい、

28 俺に近づかれるのが怖いなら……

29 もっと、本気で抵抗しないと。

30 だって、俺以外の親方のところのこの顔出して、

31 住み込みの仕事を探してますなんて言ったらさあ」

32
33 SE 馬車の窓に押さえつける

34
35 ハーラン「絶対こういうことになるって……わかってて言ってるんだよな？

36 悲鳴を上げて、誰も助けてなんかくれない。

1 逃げたかったら、自分でどうにかするしかないんだ。
2 だからほら、ちゃんと暴れて。
3 もがいて。もっと強く、もっと激しく！」
4

5 SE もがく

6
7 【3↓1↓3】

8 ハーラン「あつはは！ それで全力の抵抗？

9 全然力入ってねえじゃん。かわいーい。

10 ほーら、がんばれがんばれ。頑張って抵抗しないと、

11 悪い男にイタズラされちまうぞ？ こんなふう——

12 【耳舐める。三十秒くらい】

13
14 【ヒロイン「やめてハーラン！ こういう冗談、笑えない！」】
15

16 【3】

17 ハーラン「耳に軽くキスしながら」ああ……笑えないよな。

18 でも、悪い男ってのはおもしろ半分で、

19 いくらでも酷いことするんだ【キスここまで】
20

21 ハーラン「ヴィスクに耳を舐められたって？

22 よかったなあ、それだけですんで。

23 泣いたらやめてくれたんだろ？ だから逃げられた。

24 でも、オーリが今から生きようとしてる世界はさ、

25 逃げてきたとこよりずっとつらいし厳しいんだ。

26 泣いたって、絶対に誰もやめてくれねえよ。

27 むしろ相手が喜ぶだけだ。

28 俺も……このままじゃ、いたずらだけじゃすまなくなるかも。

29 気づいてるか？」
30

31 【1↓7】

32 ハーラン「ほら、ブラウスのボタン……もう全部外しちゃった」
33

34 【7 30秒ほど耳舐める】
35

36 【ヒロイン「やめて！ やめてよ！ ハーランなんて大嫌い！」】

【7 耳元】

ハーラン「キスしたり舐めたりしながら」嫌い？　へえ、そう。
でもそれ、言い直した方がいいと思うけどなあ。
“大嫌い”じゃなくて、“これ以上したら嫌いになる”って。
でないと俺、どうせ嫌われてるんなら、
お前に何をしたっていいんだって思っちゃまう」

【ヒロイン、泣き出す】

【1】

ハーラン「あーあ……泣いちゃった。
かわいそ。かわいそうで、可愛いけど……
とても一人で生きていける、強い女には見えねえなあ。
笑えよ。このくらい平気だって顔しなきゃ。
笑えって、ほら。こうやって」

【ヒロインの口角を無理やり上げて笑わせようとするハーラン。
ヒロインは嫌がって振り払う】

ハーラン「優しく説得」それができないんなら、

オーリに俺の申し出を断る権利はないんだ。
自分で自分を守れないなら、誰かに守ってもらわなきゃ。
俺が守るよ。俺ならこんな風にオーリのことを泣かせない。
こんな意地悪するのは今日だけ。今だけだ。
俺だって本当は、こんなことしたくない。
でも、ほかの男にされるより……俺の方がいいだろ？　な？
だから——つとー！

【ハーランを突き飛ばし、

走ってる馬車のドアを開けて飛び降りようとするヒロイン】

SE　バタバタ

SE　ガチャ

1 【5】
2 ハーラン「バカ！ 何やってんだ！」
3

4 SE 乱暴にドアを閉める

5 SE 二人分の体重がクッションに沈む音

6
7 【ハーラン、ヒロインを座席に引っ張り戻してドアを閉める。
8 暴れるヒロインを後ろから抱きすくめつつなだめる】
9

10 【4】

11 ハーラン「落ち着け、オーリ……！ 落ち着けて、暴れるな！
12 大丈夫、もうしない。本当に、もう何もしないから。
13 つはは……！ あー、焦ったあ。
14 走ってる馬車から飛び降りようとするなんて、
15 下手すりゃケガじゃすまねえぞ。
16 降参だ。オーリは強いよ。それは認める」
17

18 【ヒロイン「じゃあ、馬車止めて」】
19

20 ハーラン「だめだ。馬車は止めない。
21 言っただろ？ オーリは俺にさらわれたんだ。
22 逃がさねえよ。ヴィスクのそこにも帰さない」
23

24 【ヒロイン「そんな……！」】
25

26 【1】

27 ハーラン【笑いながら】そんな顔すんなって。
28 冗談だよ。怖がらせて悪かった。
29 ただ、自覚してほしかったんだ。
30 自分がどれだけ危ないことしてたのか。
31 それさえちゃんと理解してるなら、普通に仕事して、
32 金をためたら、部屋を借りて出ていきやすい。
33 いいよ、オーリの好きにして」
34
35
36

1 ハーラン「ただ、薄着で冬の市場で泣いてたり、

2 走ってる馬車から飛び降りようとしたり、

3 そういう危ないことを始めたら……

4 そうだな。【楽しげに】監禁しちまうかも、な。

5 【笑いながら】——マジにとるなよ。これも冗談だ」

6
7 SE 馬車の停車

8 環境音 馬車の音ストップ

9 SE ドア開け、先に馬車を降りるハーラン

10
11 【11】

12 ハーラン「さあ、どうぞこちらへ、お姫様。

13 新しいお城にご案内いたします。——なんてな」

14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

1 ■トラック4 毒の蜜の底（十三分程度）

2 晩御飯を食べたら帰るつもりだったのに、

3 満腹になったら寝てしまったヒロイン。

4 を、デザートとしていただくハーラン。

5 R18シーンはアドリブ入ってもよいので自然な感じに仕上がるようにお任せ
6 したいです

7
8 場所 寝室

9 時間 夜

10
11 S E ドアの開閉

12 S E 足音

13 S E 抱き上げたヒロインをベッドに横たえる

14 【7】

15 ハーラン「ほら、ベッドついたぞ。靴脱がすからな」

16
17 【ヒロイン、半分寝てる感じで返答もおぼつかない】

18
19 【15 下から】

20 ハーラン「そうだな、眠いよな。いいよ、寝ちまって。

21 あとは俺がやっとかから。

22 ったく……あーんなに怒ってたのに、

23 一口食べた瞬間にコロっと機嫌なおちまうんだから……

24 【苦々しげに】ほんと、単純な女」

25
26 S E 脱がせた重めのブーツを床に落とす

27
28 【7】

29 ハーラン「ちょっとは想像しなかった？

30 料理や酒に、何か変な薬が混ざってるかもって。

31 それで……なんにもわからなくなったところを、

32 こんな風に襲われちまうかもって」

33
34 【ヒロイン、ぼんやりしてて何を言われているかよくわからない】

【1】

ハーラン「それとも、相手が俺だから信じてくれた？」

だったらしいのにな……裏切っちまったけどさ。

あーあ……ひでえ間抜け面。【唇に軽くキス】

唇……果物の味する。ガキみてえ【ディープキス十秒程度】

【ヒロイン「どうしてキスするの？」】

ハーラン「うん？ キス、嫌か？ 気持ちよくない？」

【ヒロイン「気持ちいいけど……」】

ハーラン「だろ？ だからキスしてるんだ。

【軽くキスしながら】

気持ちいいキス、たくさんしような」

【ヒロイン「でも……変だよ】

【1】

ハーラン「変じゃねえよ。俺たち恋人どうしだろ？。

だからキスしてもおかしくないし、

——これから、もっと気持ちいいこともする」

【ヒロイン、わからないながらも、不安と恐怖で嫌がるのを、
後ろから抱きすくめるハーラン】

【6】

ハーラン「ああ、こら、だめだって逃げようとしたら。

しい、しい……。よしよし、大丈夫、大丈夫だから。

っはは……あーあ。何されるかもわかってねえのに、

なんでこんなに嫌がるかな……。

俺に触られたくない？ オーリは……俺が嫌い？」

【ヒロイン「嫌いじゃないけど……怖い……」】

1 ハーラン「怖い？ どうして？

2 昔はよく、俺がベッドにもぐりこんだら、

3 こうやって後ろから抱きしめてくれただろ？

4 それと同じだ。怖くないよ。優しくするから」

6 【7 背後から耳元に】

7 ハーラン「ほら、ちゃんと服脱いで。

8 ブラウスも、スカートも、しわになったら大変だ。

9 ボタン外すの、手伝ってやるから」

11 【ヒロインの服を脱がしながら、耳舐め 十秒程度ずつ左右で】

13 S E 衣擦れ

15 ハーラン「上手に脱げたな。えらいえらい。

16 【軽く脅すよ感じで】おい、体隠すなよ。

17 大丈夫、きれいだから。もっとよく見せて。

18 ほら乳首、もう硬くなってる」

20 ハーラン「なんにも知らなそうな顔してるくせに、

21 期待してるんだ？ やーらしい。【胸触りながら】

22 どう？ 気持ちいい？

23 【低く不機嫌そうに早口で】やだじゃねえだろ、嘘つくなよ」

25 ハーラン「我慢しないでいいって。

26 大丈夫、俺、いやらしい子好きだから。

27 もっと聞かせてくれよ、そのだらしない雌猫みたいな声。

28 にゃんにゃん、にゃんにゃんって」

30 【ヒロイン、もがく】

32 【3 背後から耳元に 次の指定まで3と7何くれとなく切り替える】

33 ハーラン「こら、暴れんなって。

34 くすぐったい？ もっと強くしてほしい？

35 じゃあ、このくらい強く？

36 ——はは！ なんだよ今の声」

1
2 ハーラン「そっかあ。こんな風にいじめられるのがいいんだ？
3 マジの淫乱だな。すげえかわいい。
4 もっと見せて。オーリの汚くて、いやらしいところ。
5 あー、だめだめ。泣いてもごまかせねえよ。
6 だってほら……こっち……」
7

8 S E 水音（触るだけ）
9

10 ハーラン「もうどろっどろになってる。
11 これが、ヴィスクに耳舐められたくらいで逃げてきた、
12 純情可憐な女の子の反応か？
13 乳首ぎゅーってつねられて、ぐりぐりされながら、
14 泣いてよがって、自分から腰押し付けて、
15 奥の方まで指入れてって、ねだってる淫乱が？」
16

17 【ヒロイン「そんなこと、してない……してない……」】
18

19 ハーラン「へえ、そう？ でも、全然力入れてないのに、ほら……
20 指、いきなり二本も中に入っちゃった。
21 【失望したように】人形遊びの噂……ただの噂じゃ
22 なかったみてえだな」
23

24 S E 水音（70 BPMくらいのテンションで）
25

26 ハーラン「どうせ目が覚めたら、ヴィスクのところに帰るって言うんだろ？
27 昔からそうだもんな。
28 どんなイタズラしても、ちょっと怒って見せただけで、
29 次の日には必ず許してくれる」
30

31 ハーラン「ヴィスクのこと許して、受け入れて……で、次は結婚？
32 それって、全部あいつの計画通りって感じだよな。
33 でも……そんなのずるいよな？ あいつばかり……
34 俺だってオーリのこと好きなのに……ずっと好きだったのに。
35 【少し怯えて】だから一度くらい……いいよな？
36 今夜くらい、俺のにしたって……」

1
2 ハーラン「指、気持ちいいか？ そんなに腰揺らして……もどかしい？
3 だよなあ？ こんなゆっくりじゃ、いけないよなあ。
4 いいよ。そちからキスしてくれたら、いかせてやる。
5 できるだろ？ 恋人にするみたいに、舌絡めて。
6 できないなら、ずっとこのままだ。
7 ゆっくりじらされて、じらされて……
8 いつまでも苦しいままでいたいのか？
9 俺はそれでもいいけど。——どうする？」
10

11 【1】

12 ハーラン「だから、泣いたってどうにもならねえって。
13 【励ますように】キスするだけでいいんだ。ほら、簡単だろ？
14 そう、そのまま舌出して。
15 ん……んん（長々とディープキス。秒数お任せします）」
16
17
18

19 ハーラン「今、キスしながら軽くいった？
20 あーあ、俺なんにもしてないのに、
21 勝手に気持ちよくなってる。
22 ほんと、だらしねえ顔。とろーんとしちやつてさ。
23 もっといじめたくなるな……」
24

25 S E 水音（指を抜く）
26

27 【5】

28 ハーラン「ベッドに両手ついて、ケツ上げる。
29 足開いて。もっと大きく。
30 そう……そのくらい。ああ、いい眺め」
31

32 S E ベルト外す（ファスナーはないです）

33 S E 衣擦れ

34 S E ベッドのきしみ
35
36

1 ハーラン「ゆっくり息して、ゆっくり……【時間かけてゆっくり入れる】
2 ああ……これ、思ってたより……きつ……あ……ッ!」
3

4 【ちょっと止まって深呼吸】
5

6 ハーラン「ゆーっくりうごく」わかるか?
7

8 なか、俺でぎっちぎちになってる。
9

10 【ちよつとうれしそうに】なんだ……全然慣れてねえじゃん……
11

12 ヴィスクの人形遊びも、
13

14 そんなにお盛んじゃ、なかったのかな?
15

16 それともあいつ、図体のわりに、小さい感じ?
17

18 わかんない? そうだよな……わかんないよな。
19

20 オーリは寝てただけだ……オーリのせいじゃない。
21

22 わかってる……わかってるよ……わかってる……」
23

24 S E バックなので水音&肉を打つ音 (100BPMくらい)
25

26 【ニュアンス程度ですがこっから語調やや優しく】
27

28 ハーラン「なあ……こういうことするの、俺が初めてか?」
29

30 【ヒロイン、うなづく】
31

32 ハーラン「そっか……じゃあ、俺がオーリの最初の男だ。
33

34 【噛み締める感じで】俺が最初の恋人」
35

36 ハーラン「はあ……はあ……中、あつつ……声、すげえかわいい。
37

38 もっと聞かせて……その声……俺しか聞いたことないんだよな?」
39

40 【三十秒程度吐、息のみ よきタイミングで次のセリフに】
41

42 ハーラン「っはは……へえ……ここ、突かれると、
43

44 声、我慢できないくらい、気持ちいいんだ。
45

46 ああ、だめだって。逃がさねえよ。
47

48 ほら、何度でも突いてやるから……さ!
49

50 ああ……ッ……すげえ締まる……これ……ッはは……!」
51

52 最高に気持ちいい……突くたびに、締まって……」
53

1
2 S E 水音&肉を打つ音（130↓150BPMくらいにペースアップしてく
3 イメージ。声優さんの呼吸にいい感じに合わせてください）

4
5 【3↓1】

6 ハーラン「ああ、いきそ……！ 名前呼んで……俺の名前……！
7 こっち向いて、キスしよ、な？

8 ん、んん……ちゅ……は、はあ……ん、んん……ッ」

9 【キスハメしながらフィニッシュ最後強めに何回か突く感じで】

10
11 ハーラン【軽く息整えながら】はあ……はあ……あー……

12 だめだなこれ。全然収まんねえや。

13 枕抱いて……うつぶせになって。ほら、脚閉じて」

14
15 【ヒロイン、軽く嫌がる】

16
17 【7】

18 ハーラン【耳にキスしながら】なんで？ 嫌じゃないだろ？

19 【言い聞かせる】嫌じゃない。

20 気持ちよかっただろ？ 派手にいったもんなあ？

21 もっと気持ちよくしてやるから」

22
23 S E ベッドに突き倒す布の音

24 S E ベッドの軋み

25 S E 挿入

26
27 【4】

28 ハーラン「ああ……オーリンなか、俺が出した精液でぐっちゃぐちゃ。

29 これ、中でかき回して、奥に押し込んでやるから」

30
31 S E 水音&肉を打つ音（いきなりハイペースで）

32
33
34
35
36

【4】

ハーラン「苦しげに吐息交ぜつつ」好きだ……好き、大好き……

大事にする……大事にするから……

俺のこと、好きって言って。ほら言えって。

気持ちいいだろ？ な？

俺も気持ちいい……はぁ……あ、あぁ……」

ハーラン「もういきそう？ でもだめ。もうちょっと……我慢して。

一緒にいこう。な？ 一緒に……ッ」

【一分程度、吐息のみ】

【4 耳元】

ハーラン「ほぼささやきの独り言」あ、も、出そう……

ん、く……あ、あぁ……！」

【軽く呼吸整えつつ、うつろな感じのヒロインを背後から抱きしめる】

ハーラン「このまま……ずっとこうしてられたらいいのにな。

一緒に目え覚まして、朝飯食って、普通の恋人みたいにさ」

S E みじろぎする

ハーラン「あ、悪い。苦しかったか？

ほら、こっちむいて。くつついてるとあったかいから」

S E 寝返り

【3】

ハーラン「オーリが眠るまで、こうしててやるから。

結局、最後まで寝ないでしちゃったな。

薬、ちよつとびびって減らしすぎたかも。

これ、明日オーリが覚えてたらどうしようなあ。

……いっそ、覚えてればいいのに。

そしたら……【苦笑】そしたら、どうしような」

1 ハーラン「……もう眠った？

2 なあ……俺の声、聞こえてる？

3 あったかいな、オーリの体。やわらかくて、いい匂い。

4 【泣きそうに】あー……帰したくねえなあ……」

7 ハーラン「でも、嫌われたくないんだ。

8 だから、今夜が最後。

9 これで終わり。

10 ほんとに、これで終わりにするから……。

11 今日は、怖い思いさせてごめんな。

12 ——お休み、俺の眠り姫【頬にキス】」

1 ■トラック5 怒らせてはいけない男(19分程度)

2 ハーランの商館で目を覚ますヒロイン

3 薬の影響で昨晚のことはなんにも覚えていないしなんとなく頭もいたい

4 二日酔いで記憶が飛んだと思っている

5 マルスがそんなオーリにちよっかいをかけ、ハーランの怒りを買う

6 演技しやすいようにヒロインの想定セリフ細かめに入れてあります

7

8

9 場所：寝室

10 時間：朝

11

12 S E 小鳥ちゅんちゅん

13 S E 勢いよくドアが開く

14

15 【9】

16 マルス 「おっはようございますオーリさん！ 朝食の時間ですよー！

17 ———って……うーわ、めっちゃ二日酔いの顔してる」

18

19 【ヒロイン、頭痛と倦怠感に悶絶しながら目覚める】

20

21 【9↓11】

22 マルス 「親方から聞きましたよ？ 昨日、食前酒でいきなりよっぱらって、

23 めちゃくちゃなペースで飲んだ挙句、

24 べろべろになって寝ちやったって話じゃないですか」

25

26 【ヒロイン「何も覚えてない……具合悪い……

27 どうしてマルスさんがここにいるの……？」】

28

29 マルス 「どうしてって……親方から聞いてません？

30 っつか聞いてても覚えてないのか……

31 親方にオーリさんの世話を頼まれたんですよ。

32 独り立ちしたいんですよね？

33 なのに、親方の誘い断ったって。もったいねーの。なんでまた」

34

35 【ヒロイン、言葉を濁す】

36

1 【11↓3】

2 マルス 「ふーん？ よくわかんないけど、訳アリかあ……

3 でも、親方がこんなに肩入れするの、すごい珍しいんですね。

4 どうせその感じじゃ、今日はお休みでしょ？

5 【近づいて】聞かせてくださいよ！ 親方との話！

6 ただでとは言わないで。

7 そうだなあ……この、二日酔いにめちゃくちやよく効く

8 薬でどうです？」

9
10 【ヒロイン「何でも話します……」】

11
12 マルス 「やった！ 取引成立。はい、菓飲んで。

13 じゃあ朝食の後、おやつでも食べながら、

14 色々聞かせてくださいよ」

15
16 【時間経過の間】

17 S E お皿カチャカチャ

18
19 【8】

20 マルス 「——二十五年も眠ってた!？」

21 親方が子供のころ、その面倒を見てたってことですか？

22 あー……ちよつと聞いたことあるかも……。

23 眠ったまま歳をとらない、人形みたいな女の子の話。

24 えーと、オーリさんが十七歳で、親方が三十五だから……

25 二十五年前って、親方まだ十歳じゃないですか！」

26
27 マルス 「なるほどなあ。

28 つまり、オーリさんにとって親方は、

29 年の離れた弟みたいなもの……って感じなんですかね？」

30 じゃあ、本格的に脈ナシなんだ。親方かわいそー」

31
32 【ヒロイン「脈って？」】

33
34 マルス 「え？ まさか気づいてないわけじゃないですよ？

35 親方がオーリさんのこと好きだって。

36 好きっていうかも……のぼせあがってるっていうか……」

【ヒロイン「そんなことはないと思うけど……」】

マルス 「あるんですよ、そんなこと。

ってーか親方って、今まで特定の女作ったことないんですよ。
女の子には優しいんですけど、きっちり一線引いてるって言うか。
俺、あんな親方見るの初めてで、正直驚いてます。

【身を乗り出す】だからオーリさんのことも気になってて」

【ヒロイン、ちょっとドキっとする】

マルス 「だって、あの親方が入れあげるほどの人ですよ？

どんなに魅力的な人なのかなって。

ね、親方に脈ナシなら、俺とかどうです？」

【ヒロイン「どうって言われても……」】

マルス 「俺ならオーリさんと歳も近いし、

とりあえずの恋人としてぴったりでしょ？

オーリさんが親方に興味ないのって、

おっさん相手じゃその気にならないってのもあるのかなって」

マルス 「あ、今言ったこと、親方には内緒ですよ！

昨日、ガチでオーリさんとの歳の差気にしてたんで。

あと十年早ければなーとか、なんかしみじみしてて、

ちよっと笑っちゃいました」

【ヒロイン「年齢の問題じゃないし、今は恋愛とかちよっと……」】

マルス 「えー？ 俺でもダメなんですか？

結構女の子に人気あるんだけどな……。

まあ、いきなり付き合ってたっていうのも焦りすぎか。

じゃあ、とりあえずお友達からでって感じで……」

【ヒロインの唇に軽くキスする。驚いて固まるヒロイン】

【1】

マルス 「楽しそうに」びっくりしました？ お近づきのキスってやつ。

恋人になってくれたら、

もっと気持ちいいキスでびっくりさせられるんですけど……」

【ヒロイン、怒ってマルスの肩を軽く殴る】

マルス 「ちょ……痛い痛い！ 暴力反対！

調子のりましたすみません！

ああ……ほら、お詫び！ お詫びにちょーいいところに

連れて行くんで！」

【ヒロイン「いいとこって？」】

【8】

マルス 「薬も効いたみたいですし、体調マシなっただしょ？

二十五年も寝てたなら、町のことも全然わかんないでしょうし、

市場を案内しますよ。

信頼できる商人の店を知ってれば、何かと便利です」

【ヒロイン「それは……助かるけど……」】

マルス 「でしょ？ オーリさんにはそういう、

現実的な提案の方が喜ばれるって思ったんですよね。

じゃあほら、さっそく行きましょう！

これって実質デートですよね」

【ヒロインの手を引いて、食堂を出ようとするマルス。

誰かにぶつかって軽くよろける】

S E 人間同士の衝突音

【9】

マルス 「つと……あ、すいませ……

なんだ、親方（親方じゃないですか、

と言おうとして思い切り腹を蹴られる）」

SE 蹴られたマルスが椅子にぶつかって倒れる

【16】

マルス 「いって……う、げ……おええ……！（胃への衝撃による嘔吐）」

SE 吐しゃ物

【14↓6】

ハーラン 「悪い。足滑ったわ。

あつと……！ だめだめ。オーリはこっち」

【ヒロイン「はなして！ どうしてこんなことするの？」】

【6】

ハーラン 「どうしてって……

入ってくるとき、窓からちらつと見えたんだよ。

キス、されてただろ？」

マルス 「す、すみません親方……俺、そんなつもりじゃ……」

ハーラン 「どんなつもりかなんて聞いてねえよ黙ってる。

ったく、おいたはするなって言っておいたのに……

ごめんな？ 怖かったよな？ 【耳に軽くキス】」

【ヒロイン「あんなの、軽い冗談じゃない……！」】

【4】

ハーラン 「軽い冗談……？ って……はは。

【怒り】それ本気で言ってるのか？

昨日はあんなに怒ったくせに……。

俺には離れろって言ったくせに……

マルスのことは、許すのか？」

【ヒロイン「昨日とは状況が全然違うでしょ!？」】

1 ハーラン「そうだよな。昨日とは状況が違うよな。

2 昨日、俺は何もしなかった。

3 ただ、仕事を紹介しようとしただけだ。

4 ただ心配しただけだ。

5 なのに……オーリは俺に怯えたんだ。

6 だから俺はあんな……！

7 おい目えそらすなよ。話を聞け。聞けって！」

8
9 S E 逃げようとするヒロインを壁に押さえつける

10
11 【1】

12 ハーラン「ほら……その目だよ。知らない男に怯える目。

13 その目で見られると、すげえイライラする。

14 笑えよ……ほら、笑えって。昔みたいにさ。

15 笑えよ！ 笑え！」

16
17 S E 怒鳴りながらヒロインの顔の横の壁殴る

18
19 【16】

20 マルス「お、親方！ 落ち着いてください！

21 オーリさんはただ、俺をかばってくれてるだけで……」

22
23 ハーラン「それが気に入らねえつてんだよ。

24 なんで俺じゃなくてお前をかばうんだ？

25 だってオーリは、俺の……【言いよどむ】！」

26
27 ハーラン【呟くように】……俺のだ」

28
29 【1】

30 ハーラン「やっと、俺のどこに来たのに……

31 これからたくさん優しくしてやろうって思ってたのに。

32 なのに……なんで俺じゃなくて、マルスなんだよ！

33 俺の方が、ずっとお前のこと……！【ヒロインに

34 かみつくようなキス】」

35
36 S E 激しくもがいて暴れる

【ヒロイン、ハーランの唇を思い切り噛む】

ハーラン「ッ……【噛まれてもキスやめない】」

SE 弱弱しくもがく（疲れてきた感じで）

【1 少し離れて】

ハーラン「少しほっとして」ああ……やっと大人しくなったな。

あー、はは……いってえ……！

唇噛んだら、俺がやめると思ったか？

【優しく】そんなわけないだろ？」

【3】

ハーラン「普通なら、噛んだ瞬間に殴られてるぞ？

大人しくなるまで何度も殴られて、血まみれのまま犯されて、裸のまんま地下室に転がされる。

【耳で】抵抗するってのは、そういうことだ」

【7】

ハーラン「でも大丈夫、俺はオーリにそんなひどいことしないから。

——ああ、そっか。

オーリは俺がいい子だって、ちゃんとわかってるんだよな。

だから噛んだんだろ？ 俺に甘えてたんだよな？

いいよ。もっと甘えて。俺になら何してもいい」

ハーラン「でも……マルスは昨日会ったばかりの他人だろ？

なのにあんな風は無防備にキスさせたらだめだって……

危ないって、わかるよな？ 俺の徒弟でもさ。

そんなにマルスが気に入った？

かわいい顔してるもんなあ、あいつ」

ハーラン「耳にキスしながら」いいよ。オーリが欲しいって言うなら、

マルスに首輪つけて、お前に鎖を握らせてやる。

ほかには何が欲しい？ 何でも用意するよ。オーリのためなら」

1 ハーラン「――何もいらない？ 本当に？

2 だったら、全部奪っちゃおうかなあ。

3 マルスを殺して、ヴィスクも殺して、服も全部燃やしちまって、
4 なんにもなくなったオーリを、俺が地下室で飼うんだ。

5 【キスここまで】

6
7 【ヒロイン「違う、そういう意味じゃない……！」】

8
9 ハーラン「それは嫌？ だったら取引に応じなきゃ。

10 俺が欲しいのはお前だけ。

11 お前と恋人みたいなキスがしたいだけ。

12 抱き合って眠って、目が覚めたら、俺の腕の中にお前がいる。
13 そういう朝が欲しいだけ。

14 俺が何を差し出したら、オーリは俺にそれをくれる？」

15
16 【ヒロイン、答えられず泣き出す】

17
18 【1】

19 ハーラン「また泣くのか……泣き虫だなあ、オーリは。

20 【独り言】昔の俺みてえ……

21 【深いため息】あー……くそ……なんでかなあ。

22 ほかの女はちゃんと上手く扱えるのに、なんでこんな……
23 一番大事な人にだけ……」

24
25 ハーラン【静かに】ずっと考えてたんだ。二十五年、ずっと。

26 オーリが目え覚ましたら、

27 好きになってもらうために何でもしようって。

28 強くなって、男らしくなって、オーリを守るようになろうって。
29 なのに俺……【自嘲】泣かせてばかりだな」

30
31 ハーラン「……なあ、嘘でいいよ。演技でいい。

32 “恋人になるから、ひどいことしないで”って、言ってくれ」

33
34 【ヒロイン、首を左右に振る】

35
36

1 ハーラン「嫌？ 嘘でも言えない？
2 わかるよ……言葉、出てこないよな。
3 言わなきゃいけないってわかってても、のどにつつかえてさ。
4 嫌いな相手に、好きなんて……嘘でも言えないんだ。
5 壊れなきゃ言えない。壊れなきゃ……」

6
7 【ヒロイン「ハーラン？」】

8
9 ハーラン「……ごめんな、オーリ」

10
11 S E 服破く

12
13 マルス 「親方!? ちょっと……それはまずいですって！
14 大事な人なんですよね？ なのにそんなことしたら……！」

15
16
17 【1 マルスは見ずに】

18 ハーラン「マルス。外で見張ってる。誰にも見せたくない」

19
20 マルス 「でも……」

21
22 ハーラン「早くしろ！」

23
24 マルス 【後ろ髪ひかれながら】は、はい……！」

25
26 S E ばたばた走り去る

27 S E ドア閉める

28
29 【ヒロイン「何するの……？」】

30
31 ハーラン【頬や首筋にキスしながら】ごめん。わがままばかりで。

32 許さなくていい。好きにならなくていい。
33 憎んでいいよ。俺のこと嫌っていい。
34 でも、俺は好きだから。ほんとに好きだから……！」

35
36 【ヒロイン、やめたと叫んで必死に暴れる】

【1】

ハーラン「しい、しいー……頼むよ、ひどくしたくないんだ。

じっとしてれば、怖くないから。

縛られるの、嫌だろ？ 俺もそんな風にしたくない。

大人しくしろって、いい子だから……【焦れて】頼むから！」

SE 壁殴る

ハーラン【懇願】お願いだから……殴らせないでくれ……

それだけはしたくないんだ。それだけは……」

【ヒロイン、抵抗をあきらめる】

【1 下から】

ハーラン「そう……いい子だな。いい子だ。

【ヒロインの胸にキスしながら】すげえ鳥肌。

怖いよな。気持ち悪いよな。

でも、乳首もたっちゃってる……

ちよつと痛いくらいが、好きなんだろ？

こうやって指ではじくと……ほら、すぐにびくってなる」

【ヒロイン「そんなことない……！」】

ハーラン【笑って】強がるなよ。恥ずかしいことじゃない。

どこが気持ちいいか、どうされるのが感じるか、

ちゃんと全部わかってるから。

舐めて、しゃぶって、最後に噛んでやる。こうやって……」

【三十秒ほど胸を舐める】

ハーラン「真っ赤になっちゃって……かわいいなあ。

腹立つよな。感じたくないのに、気持ちよくさせられて。

死にたいくらい、つらいよな？

服、破いちゃってごめんな。また新しいの買ってやるから。

足、ちよつと開いて。そう……そのまま。

スカートの裾、噛んでる。俺がいいって言うまで」

1 SE ひざまずく

2
3 ハーラン「あーあ……触ってもないのに、下着までぐっちょぐちょよ。
4 これ、もう使い物にならないから……」
5

6 SE ジャックナイフパチン

7
8 ハーラン「切っちゃうぞ」
9

10 SE 布を切る

11
12 ハーラン「あっはは。糸引いてる。
13 オーリの体は、もう俺が中に欲しいってさ。
14 やーらしい。

15 でも、オーリのせいじゃないよ。全部俺が悪いんだ。
16 俺のせいだから、ちゃんと、きれいになめてやらないとな」
17

18 【ここからヒロインの秘所舐めながら】

19 ハーラン「あーあ、こんなに濡らして……舌じゃ全然間に合わねえな。
20 指、入れるからな。
21 怖いのも、恥ずかしいのも、全部わかんなくなるくらい、
22 感じさせてやるから」
23

24 SE 派手目の水音

25
26 【三十秒ほど秘所舐める】

27 【ヒロイン、いくと同時に床にへたり込む】
28

29 SE どざり

30
31 【3 (耳元)】

32 ハーラン「おっと……ああ。立ってらんなくなるくらい、気持ちよかった？
33 でも、ちゃんとスカートの裾、くわえたままでいられたな。
34 よーしよし、えらいえらい。
35 もう、吐き出していいから。ほら、ぺってして。
36 おいで。大丈夫、床で犯したりしないから」

1 SE 抱き上げる

2 SE 椅子を引く

3 SE 二人分の体重で椅子軋む

4
5 【1】

6 ハーラン「ほら、俺の膝の上に乗って。

7 わかるか？ もうこんなに硬くなってる。

8 俺も早くオーリの中に入りたい。

9 腰、こっちにびったりくっつけて。スカートで隠れるから、

10 恥ずかしくないだろ？」

11
12 ハーラン「ああ、泣くな、泣くなって。

13 怖くないよ。大丈夫。絶対痛くしないから。

14 ほら、俺の肩につかまって。

15 キスしながら入れてやるから。舌だして。ん……んん……」

16
17 SE 椅子のきしみ

18 SE 挿入

19
20 ハーラン「ほら、痛くないだろ？ もう全部入ってる。

21 わかるか？ ここ、腹の上からぐって押すと……

22 な？ 気持ちいいだろ？ ほら、ぐ、ぐ、ぐって……。

23 ツ……！ つはは……今の締め付け……イっちゃった？」

24
25 ハーラン「じゃあ、気持ちいいのが残ってるうちに、何回かいっところか。

26 やだじゃないだろ。ほら、動くから、

27 落ちないようにちゃんと捕まってる。ぎゅーって」

28
29 SE 肉を打つ音&水音（最初から早めに130BPM程度で）

30 SE 動きに合わせて椅子ギシギシ

31
32 ハーラン「はあ……ああ、すげえ……腰、動いちゃってるな。

33 それ、無意識でやってんの？

34 それとも早く終わらせようとしてる？

35 俺が早くいけば、解放されるって？ そうだよ。大正解。

36 だから頑張れ、頑張れ」

1
2 ハーラン「はあ、はあ……ああ……すごい……

3 これ、ほんとにやばいかも……

4 なあ、好きって言って。

5 俺のこと、好きって。今なら言えるだろ？」

6
7 【ヒロイン「好き……好き、大好き……」】

8
9 ハーラン「うん……俺も好き。大好き。ずっと……ずっと好きだった。

10 【軽く泣きつつ】嬉しい……嬉しいよオーリ。

11 嘘でもすごい嬉しい。

12 あ、ああ……はあ、はあ……くそ、なんで……

13 こんなつもりじゃ……こんなの……ッ！

14 許してオーリ……ごめん……ごめん……

15 すぐ終わらせるから。もうちょっと我慢して。

16 ——オーリ？ んっ……う…… 【数秒動き止まる】

17
18 【ヒロインからキスされて驚きつつ、ゆるゆる応じる】

19
20 【ここからキスハメ】

21 ハーラン「ん……ふ、その動き……やば……んう……

22 すごいエロい……。

23 ああ、もう……これ、出ちまいそう……！

24 んう……ん……！ も……出る……あ、ああ……！」

25
26 S E 肉を打つ音&水音(80→150BPMに推移という感じ)

27
28 【キスしながら余裕ゼロな感じでフィニッシュ。

29 出したあともしばらくキスしっぱなしで、甘える弟感出してください】

30
31 【7】

32 ハーラン「はあ……はあ……ああ……っはは……

33 なんだこれ……すごいよかった……頭んなか真っ白。

34 もう俺、このまま死んでもいいや。

35 なあ……ナイフの場所、わかるだろ？ 腰のベルト。

36 今なら俺、抵抗しないよ。」

1
2 【ヒロイン「そんなことできないよ」】
3

4 【7↓1】

5 ハーラン「そっか……そうだよな。できないよな。
6

7 じゃあ……もう俺のだ。
8

9 誰にもやらない。どこにも帰さない。
10

11 俺だけが愛して、大事にして、甘やかして、
12

13 俺しか見られないようにしてやる。
14

15 だから……だからさ……だから……」
16

17 【ヒロインの唇に、ねっとりキスして、抱きしめる】
18

19 【3 耳元】
20

21 ハーラン「お願い……ずっと俺のそばにいて……」
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

1 ■トラック6 金糸銀糸の蜘蛛の糸（16分程度）

2 軟禁状態みたいになってしまい、外に出るに出られないヒロイン。
3 しばらくすれば落ち着くかと思いきや、束縛は強くなる一方。
4 なんとかしなきゃなあ、と思っていると、マルスが「逃がしてやる」と持ち掛
5 けてくる。

6 信じてついていくヒロインだが、そこに待っていたのはハーランだった。

7
8 場所…屋外

9 時間…朝

10
11 SE 小走りの足音

12
13 【16 遠くから】

14 マルス 「オーリさん、こっちです、こっち！」
15

16 【9】

17 マルス 「よかった。ちゃんと部屋から抜け出せたんですね。

18 いやあ、大変でしたよ。オーリさんの部屋の鍵、
19 こっそり開けといてももうように根回しするの」
20

21 【ヒロイン「ありがとう。でも、みんなハーランに怒られない？」】
22

23 マルス 「いや、普通に俺はめちゃくそに怒られると思いますけど……
24 ってか命すらヤバイ気がしますけど……。

25 でも、こんなのやっぱおかしいですもん。

26 親方らしくない」
27

28 【ヒロイン「ヴィスクが私を探してるんだって？」】
29

30 マルス 「ああ、そうなんですよ。

31 ヴィスクさん、実は親方のもとにも何度も来てて、
32 見つけたら教えてくれてって頭も下げてたんですけど……

33 まあ、親方がほんとのこと教えるわけないですよねえ。

34 【探るように】ここに来たってことは……

35 オーリさんは、ヴィスクさんのところに帰りたい——
36 ってこといいんですよね？」

1
2 【ヒロイン「そういうわけじゃないけど……心配かけてるから」】
3

4 マルス 「あー、そっか。ケンカして、家出したきりなんでしたっけ。
5 あれから一ヶ月ですもんねえ。
6 まあどっちにせよ、親方に監禁されてるよりはマシかあ。
7 ——監禁つつても、大分甘やかしてる気はしますけど」
8

9 マルス 「あー、いや。だからって、
10 監禁されたままがいいとは言ってませんよ！
11 ただ……ちよっと残念ですけどね。
12

13 俺、親方もオーリさんも好きなんで。
14 【気を取り直して】じゃあ、行きましようか」
15

16 S E 二人並んで歩く足音
17

18 【15】
19

20 マルス 「なんていうか、親方もバカですよねえ。
21 二十五年も片思いしてた女の子が、
22 やっと自分のところに來たってのに、
23 焦って怖がらせて嫌われて……
24 で、逃げられると思ってまた焦って今度は監禁。
25 そのくせ、オーリさんがいつかは自分に
26 振り向いてくれるって、子供みたいに信じてる」
27

28 マルス 「正直、見てられないんですよね。
29 俺、何度も言っただけですよ？
30 もう諦めて、別の女に乗り換えた方がいいって。
31 でも、親方はオーリさんじゃなきゃダメなんですって。
32 何がそんなに特別なんだか、俺にはよくわかんないですけど……
33 あー、もう駄目なんだって。それだけはわかつちゃって。
34 だからこうするしかなかった」
35

36 S E 足音ストップ

1 マルス 「――あ、ここです。

2 この地下室で、ヴィスクさんと待ち合わせ。

3 鍵は開いてるはずなんで、先に降りちゃってください」

5 S E 背後から足音が付いてくる

6 S E 重い鉄扉開ける

7 S E 反響する足音

8 S E 背後で鉄扉がしまる

9 S E 鍵の音

11 【13】

12 マルス 「さて……

13 親方あ！ 連れてきましたよ、オーリさん！

14 ほーら、俺の言った通りでしょ？

15 監禁したままどんなに甘やかしたって、

16 オーリさんは親方を好きになったりしないし、

17 チャンスがあったら絶対逃げるって」

19 【9】

20 ハーラン 【失望して】 ああ……そうみたいだな」

22 【ヒロイン「どうということ……？？」】

24 【3】

25 マルス 「びっくりしました？

26 俺がそのかしたら、オーリさんが付いてくるかどうか、

27 親方と賭けたんです。

28 俺はついてくる方にかけて、親方は残る方に賭けた。

29 で、ここについた時点で俺の勝ち」

31 S E ドアに飛びついてドンドン叩く

【4】

マルス 「あー、無駄無駄。」

ここ、制裁なんかにも使う地下室なんで、
絶対外には聞こえせんよ。

聞こえたとしても、誰も気にしませんし。
ねー、親方」

【13】

ハーラン 「……なんて言って誘い出したんだ？」

マルス 「聞かない方がいいと思いますけど」

ハーラン 「いいから」

マルス 「ヴィスクさんが探してるって言いました」

ハーラン 「ああ、そう……【深いため息】そうかよ……

結局あいつか……俺よりあいつの方がいいか……
そうだよな……わかってる……わかってたさ……」

SE 最初より激しさを失いつつも、弱弱しく鉄扉を叩き続ける

SE 背後にゆっくり迫る足音

SE ヒロインの顔の横で鉄扉殴る音 強く

【6 耳元】

ハーラン 「ぎゃあぎゃあ喚くな。無駄だっつってんだろうるせえな。

【腕引っ張って】ほら、こっちこい」

【怯えながら従うしかないヒロイン】

【4↓9 歩きながら】

マルス 「あ、俺、鎖用意しますね」

SE 足音

SE 天井から鎖ジャララ

1 【ヒロイン「鎖ってなに……？ 何するの？」】

2

3 【9】

4 マルス 「え？ 何って……賭けの清算ですよ。

5 親方が勝ったら、二人の關係に口出ししない。

6 でも俺が勝ったらオーリさんをペットにして、

7 俺も一緒に可愛がっていいことになってるんです」

8

9 【1】

10 マルス 「はい、両手出して。枷はめますね

11 親方、オーリさんおさえててください」

12

13 【5】

14 ハーラン【「ため息」……ほら。隙間に布かませとけよ。傷になる」

15

16 【1】

17 マルス 「はい。さすが親方。女の子にやさしい」

18

19 S E 手枷ガチャン

20 S E 鎖と滑車ガラガラ

21 S E 何くれとなく鎖の音つけてください

22

23 【「ここから立ち位置、マルスが背後でハーランが正面固定」】

24

25 【4】

26 マルス 「天井から吊るすんですけど、完全に吊っちゃうと、

27 肩の骨抜けちゃうんで、軽くつま先立ちくらいですかねえ。

28 服、どうします？ 親方破きたいですか？」

29

30 ハーラン【「うんざりして」なんでお前はそんなに楽しそうなんだよ……」

31

32 マルス 「だってめっちゃ楽しいですから！」

33

34 【3 背後から耳元】

35 マルス 「これから毎日三人で、いっぱい気持ちよくなりましょうね。

36 オーリさん」

1
2 【ヒロイン「嫌、許して……もう逃げないから。なんでもするから……！」】
3

4 マルス 「へえ……この状況になって、まだそんなこと言えちゃうんだ。
5

6 【軽蔑】すげー悪女。
7

8 どうです？ 親方。
9

10 許してくれるなら、何でもしてくれるらしいですけど」
11

12 【1 至近距离】
13

14 ハーラン 【失笑】なんでもねえ……
15

16 それで？ 体一つで孤児院から飛び出してきた、
17

18 何も持っていないお嬢ちゃんに……一体何ができるんだ？
19

20 俺はマルスとの賭けに負けたんだ。
21

22 この賭けを反故にするためには、商人として、
23

24 相応の対価を払わなきゃならなくなる。
25

26 それを俺に払わせるだけの価値が、お前にあるのか？
27

28 俺を捨てて、ヴィスクのどこに行こうとした女に？
29

30 なあ、教えてくれよ。
31

32 俺とマルスに犯される以上の価値が、
33

34 お前のどこにあるのかさあ！」
35

36 ハーラン 「嘘でよかったのに……愛してるふりでよかったのに、
37

38 それすらしてくれなかったお前を、
39

40 俺が助けてやる理由はなんだ？
41

42 ほら、言ってみろよ。なあ、なあ、なあ！」
43

44 【ヒロイン、怯えて泣きじゃくる】
45

46 【1 少し離れて】
47

48 ハーラン 【落胆】ほら……何もできない。
49

50 終わりだ、オーリ。全部終わったんだよ、もう」
51

52 S E ビリビリ服破く
53

54

55

56

1 ハーラン「全身にキスしながら」ここで飼うなら、
2 いろいろ用意しねえとな。
3 首輪と、足枷……調教用の鞭もいるか……」

4
5 【3】
6 マルス「ああーやばい……これすげえ興奮してくる……！
7 オーリさんの泣き顔、みっともなくてかわいい。
8 舐めてあげますね【言いながらべろっと舐める】」
9

10 【3 耳元で】
11 マルス「すげー震えてる。子犬っぽい。
12 胸、触りますね。大丈夫、痛くないから。
13 ほら、指の先でくすぐるだけ。
14 気持ちよくなって、もっと強くってオーリさんがねだるまで、
15 こうしててあげる」
16

17 【マルス、ここから次のセリフまで左右の耳舐める】
18

19 【1】
20 ハーラン「おい、足開け。もっとちゃんと！【軽く叩く】
21 そう、それでいい……」
22

23 S E 水音

24
25 ハーラン【指で入り口あたりぬるぬる】あーあ……今までで一番濡れてる。
26 【困り笑い】ほんっとおまえ……どうしようもねえ淫乱だなあ。
27 鎖で吊るされて、男二人に嬲られて、
28 こんなにどろどろに濡れるなんてさ。
29 今のお前のこと、ヴィスクが見たらどう思うかな？
30 がっかりするだろうなあ。あいつすげえ潔癖だし」
31

32 ハーラン「指、入れるぞ。ほら、二本。あっけなく入った」
33

34 S E 指出し入れする水音（100BPM程度でねちねちと）
35
36

1 ハーラン「なか、ぎゅうぎゅう締め付けてくる……。
2 ここ、奥のほう、指でひっかかれると、
3 すぐいっちまうんだよね？」

4
5 【ヒロイン「やめて、おねがい……！」】

6
7 ハーラン【失笑交じり】あ？ やめるわけねえだろ。

8 ほら、我慢してないではやくいけよ。

9 淫乱の雌猫らしく、

10 よだれ垂らしながらみっともなくいっちまえ」

11
12 【ヒロイン、泣きながらもぐく】

13
14 ハーラン「ああ、そうだな。こんなのひどいよなあ。

15 けど、これから毎日、もっとひどいことし続ける。

16 全身ぎっちぎちに縛ったままぶっとい棒奥まで突っ込んで、

17 一日放置した後にめちゃくちゃに犯してやるよ。

18 こんなに淫乱じゃあ、俺とマルスだけじゃ物足りないかもなあ。

19 じゃあほかの男も調達しなきゃ。

20 朝から晩まで何十人って男に回させて、

21 白いゲロ吐くまでたっぷり飲ませてやる【セリフ言いながら、

22 支配を感じさせる感じのディープキスになだれ込む】

23
24 【4】

25 ※ハーランのキス中にこのセリフいい切る

26 マルス 「うわあ、こっわ……

27 俺もオーリさんが気持ちよくなれるような道具、

28 いろいろ調達してこなきゃなあ。

29 エグいやつ結構出回ってるんですよ。

30 俺が設計して職人に作らせてもいいなあ。

31 オーリさんで実演販売とかしたら、

32 結構いい値段れ売れそうじゃないですか？ ね、親方」

33
34 ハーラン「ああ……かもな」

35
36 マルス 「ええ……ノリ悪くないですか？」

1
2 ハーラン「何でもいい……この女が壊れて、何の価値もなくなって、
3 誰も興味を示さなくなるくらいボロボロになるならな。
4 そうしたら——」
5

6 【3 耳元】

7 ハーラン【「甘く」そうなったら、ここから出してやる。
8 ゴミクズみたいなったお前を、俺が宝物みたいに大事にするから。
9 う、く……ああ……】【ヒロインの両足抱えて中に押し入る】
10

11 S E 挿入の水音

12 S E 鎖

13
14 マルス 「あ、親方ずるい！ まだ順番決めてないじゃないですか！」
15

16 ハーラン「お前はケツで我慢しとけよ。こっちは俺専用」
17

18 【ハーラン、7耳元 次のセリフまで無言で強めの吐息】
19

20 S E 肉を打つ音&水音（最初から早めに130BPM程度で）
21

22 S E 動きに合わせて鎖ジャラジャラ

23 マルス 「え？ 俺、そこに混ざっていいんですか？
24 やった！ 油もつてきといてよかったあ」
25

26 【ヒロイン、泣き叫んで暴れる】
27

28 【4 耳元】

29 マルス 「あつはは！ 【女の子の声真似】いやあ、やめてえ、やだあつて。
30 そんなに嫌がらないでくださいよ。傷つくから。
31 かわいいお尻。こっち使うの初めてですよね？
32 いきなり二輪挿しかー。オーリさん、ほんとに壊れちゃうかも。
33 香油でちよつとならしますね。まずは指一本」
34

35 ハーラン「ッ……！ ばか、強く締めすぎだ。もっと力抜け」
36

1 【4】
2 マルス 「……あれ？ これ、初めてじゃないな。
3 えー？ 親方じゃないなら、ヴィスクさん？
4 そういうことしそうな人に見えないけど……まあ、楽でいつか。
5 じゃ、いただきまーす」
6

7 S E 挿入音

8
9 【3 背後から耳元】
10 マルス 「んっ……く……はぁ……ほら、はいっちゃった♡
11 あぁ……このぎっちぎちで……苦しい感じ、たまんねえ。
12 あれ？ 黙っちゃった。
13 いいんですよ？ 悲鳴上げて。さすがに苦しい？
14 でも、まだ始まったばかりですから。
15 ほーら、奥に入れて、抜いて、入れて、抜いて。
16 あぁ……気持ちいい……俺、そんなに持たないかも」
17

18 【マルス、ハーランのセリフに合わせて、フィニッシュまで吐息で】
19

20 S E マルスが出し入れする音 (70BPMくらいでゆっくりと)
21

22 【ヒロイン、「いや」と「やめて」しか言えない感じになる】
23

24 【4 耳元で】

25 ハーラン「歯ぁ食いしばるなよ。碎けるぞ。
26 俺の肩噛んでろ。
27 辛かったら、そのまま噛み切っていいから。
28 あぁ……かわいいなぁ……くそ、かわいい。
29 好きだ……こんなに好きなのに、なんで逃げたんだよ……！
30 上手くやってたよな、俺たち……ちゃんと優しくしてた……
31 大事にしたのに、なんで……！
32 お前が悪いんだ……全部お前が……！」
33

34 【ヒロイン、最後のひと暴れ】
35
36

1 ハーラン「中は嫌？ 出されたくない？

2 はは……そうだなあ？ でもダメだ。

3 全部、一滴残らず、お前の一番奥で出してやる。

4 お前は俺のだって、もう一度、ちゃんと奥に、

5 教え込んでやらねえとな……！！

6 あ……はあ……はあ、はあ……あ……！！

7 だから……壊そうとしてんだよ。

8 そうだ、壊れる。壊れる、壊れるッ……！！」

10 マルス 「俺も、もう出そう……これ、良すぎて……

11 あ、ああ……！！ いく、いく……いく……！！

12 【最後に乱暴にヒロインゆすってフィニッシュ】

14 S E マルスサイド 100BPS程度に。ペースアップのちストップ

16 【マルス、呼吸整えながらヒロインの耳にキス繰り返す】

18 S E ハーランサイド 130BPS→150程度の勢いで

20 ハーラン「愛してる……俺の……俺のオーリ……！！

21 俺も、もう……あ、ああ……！！【フィニッシュ後も

22 あんまりすつきりした感じ出さないで、体の快樂と真逆の

23 心の痛みにもがく感じが出るとよいなあと】

25 【十秒程度、マルスとハーランの吐息のみ】

27 ハーラン「マルス。オーリをおろしてやれ」

28 マルス 「ああ……はーい」

30 S E 足音

31 S E 鎖緩めてヒロインを床におろす

32 S E どざり

34 マルス 「あーあ。氣い失っちゃってる。

35 もうちょっと遊びたかったけどなあー」

36

1 ハーラン「――悪い。ちょっと、二人にしてくれ」

3 マルス「え？ まだそんな感じなんですか？

4 いい加減ふつきりましようよお。

5 まーいいですけど……

6 賭けは賭けですからね！」

8 ハーラン「わかってる！ 分かってるから……頼むよ……」

10 マルス「はいはい。わかりましたよ。

11 風邪ひかないように、

12 ちゃんときれいにして服着せといってくださいよ。

13 じゃあ俺、仕事に戻るんで。

14 ――またね、オーリさん【頬にキス】

16 S E 立ち去る足音

17 S E 鉄扉の開閉

19 【床に下ろしたヒロインを抱きしめながら】

21 【3】

22 ハーラン「ごめんな……つらかったよな。

23 ほら、口開けて。この薬飲んでは、つらくないから。

24 つらいのも、怖いのも、痛いのも、全部なくなつて、

25 気持ちいいだけになれるから。

26 一人じゃ飲めない？ じゃあ、口移しで……な？」

28 【ハーラン、瓶の中身の液体をヒロインに飲ませる】

30 ハーラン「ごめんな。俺、こんなで。

31 愛してもらえないような男じゃないのに、

32 諦めることもできなくて【泣く】。

33 俺が、壊れてる、から……

34 オーリのことも、壊さないと……釣り合わなくて……！」

1 ハーラン「ずっと一緒にいる。それだけは約束するから。」

2 早く壊れて、なんにもわからなくなっちゃえよ。

3 国中の男たちが大騒ぎしたって、素直な心の青年がキスしたって、
4 絶対目を覚まさないくらいにさ。

5 そしたら、二人でどこか、遠くに行こう。

6 なんにも要らないから、俺。

7 お前がいてくれたら、それだけでいいから」

8

9 ハーラン「愛してる。本当に。——お休み、俺の眠り姫【頬にキス】」

10

11

END